

MVN 2018.2 リリースノート

新バージョン	■MVN 2018.2 ■Awinda システム:AW-A2 FW 4.3.5, AW-DNG2 FW 4.3.5, MTw2 FW 4.3.5 ■Link システム:BPack FW 1.1.8, MTx2 FW 1.1.8 ■FirmWare Updater:4.2.1
旧バージョン	■MVN 2018.0.3 2017/11/7 ■Awinda システム:AW-A2 FW 4.3.4, AW-DNG2 FW 4.3.4, MTw2 FW 4.3.4 ■Link システム:BP FW 1.1.7, MTx2 FW 1.1.7 ■FirmWare Updater:4.2.1
リリース日	2018/8/1
アイコンの意味	[+]追加機能、[^]変更機能、[!]注意点、[#]修正点、[-]削除機能

1. イントロダクション

このリリースノートには、新しい MVN Analyze / Animate バージョン 2018.2 の詳細が含まれています。この最新のリリースには、新機能や改善点、最新のバグ修正に関するアップデートが含まれています。

注：MVN 2018 より前のバージョンを使用している場合は、新しい機能と安定性の更新を活用するために、MVN システム（MVN Link / MVN Awinda）でファームウェアを更新する必要があります。Firmware Updater 4.2.1 (FWU) をダウンロードしてください。

2. メジャーアップデート及び新機能

2.1 MVN 2018.2

- + プロップを使ったオンボディーレコーディング（On-Body-Recording）対応。
- + フィンガートラッキングのための ManusVR グローブのサポート、データのエクスポート（Export）およびネットワークストリーミング（Network Streaming）可能。
- + Awinda の下半身サンプリングレートが最大 100Hz まで増加。
- + ハードウェアステータスで複数のデバイスを選択可能。
- + ファイルを開いた際に自動で HD リプロセッシング（HD reprocessing）起動、設定で変更可能。
- + リプロセッシング中、MVN Analyze/Animate 内のアバターの位置を原点（Origin）または他の任意の場所に調整可能。
- + “キャリブレーション選択” 後、自動的にリプロセッシング起動。
- + リプロセッシングダイアログの改善。
- + Siemens プラグインにて UDP プロトコル使用可能。
- + MVN で使用統計情報を記録可能。これにより、使用されている機能やコンポーネントが匿名でどのように使われているかフィードバックされ、製品改善のための意思決定に役立ちます。

3. バグ修正

3.1. MVN 2018.2

- # 使用可能な 3D ビューがない場合でも、ムービーバッチエクスポートがクラッシュしなくなりました。
- # パケットが欠落しているオンボディーレコーディングのインポートの際、停止しなくなりました。
- # 複数のアクターの運用中でのライブグラフの機能強化。
- # 編集バーが閉じられている時にも ‘すべてのユーザー定義の削除（Remove all user defined）’ が機能するようになりました。
- # 使われてないプロップは、ハードウェアパネルで “Unknown” ではなく “Unused” と表示されます。
- # 複数のアクタが有効になっている時に MVN ウィンドウが拡大されなくなりました。
- # キャリブレーション処理中に正しいポーズが表示されず。
- # ボディパックが接続されていない場合、 ‘ボディパックは USB ケーブルで接続されていません（Body-pack is not connected via USB cable）’ というメッセージと共に、オンボディーレコーディング設定は使えなくなります。ボディパックが再接続されると、再び設定を編集可能になります。
- # オンボディーレコーディングでプロップがインポートできるようになりました。
- # MVN Link および MVN Awinda レコーディングの場合、異なるサンプリングレートのタイムスタンプのマーカーが修正されました。
- # MVN Link および MVN Awinda レコーディング中、MVN Awinda が範囲外になった場合、複数ではなく 1 つのエラーダイアログが表示されます。

- #すべての面は現在、メートル法と帝国単位で一貫しています。以前はいくつかの値はメートルで、一部の値はセンチメートル表記されていました。
- #ビュー機能がリンクされ、複数のファイルが開いている間に回転/パン/ズームすると、すべてのビューが同じ動作をするようになりました。
- #ムービーエクスポートの際、エクスポートされた元のファイルを上書きしなくなりました。
- #MVN Awinda システムのキャリブレーション性能が改善されました。
- #ソフトウェア起動時、繰り返しオンラインMVN プロダクトキーを要求することがなくなりました。
- #Windows 10 用でのソフトアクセスポイント (Soft Access Point) 機能が改善されました。
- #リプロセス HD によって膝でセグメントが分離される現象がなくなりました。

3. MVN SDK

- #MVN SDK で Python 3.5 および 3.6 をサポート。

3.1 ファームウェア

- ファームウェアを最新版にアップグレードすることをお勧めします（上記を参照）。

4. マイナーアップデート

4.1 MVN 2018.2

- +キャリブレーション前にボディ寸法の設定するよう警告表示。
- +デフォルトの HD リプロセッシング。
- +ファイルプロパティウィンドウにリプロセス情報を表示（バージョンとクオリティ）。
- +リスタートとリプロセッシングオプションの改善。
- +オンボディーレコーディングのインポートファイルを後で処理する機能追加。
- +オンボディーレコーディングファイルをインポートするときにファイルサイズを表示。
- +モーキャブのクオリティ改善。
- +ボディディメンション読み込みの際、ドロップダウンメニューから以前使用した寸法値を選択可能。（最大 10 個）
- +MTx2 でデータが欠落している場合、ログウィンドウにエラーを表示。
- +ネットワークストリーマーアイコンが再生コントロールツールバーに移動。

4.2 MVN SDK

- +XME SDK ドキュメントの改善